

阿蘇市におけるアライグマ *Procyon lotor* の初確認

前田 史和¹⁾

¹⁾熊本野生生物研究会

The first confirmation of an invasive feral raccoon *Procyon lotor* in Aso City, Kumamoto Prefecture

Fumikazu Maeda¹⁾

¹⁾Kumamoto Wildlife Society

はじめに

アライグマ *Procyon lotor* は北米大陸原産で、食肉目アライグマ科に属する中型の哺乳類である。日本では1962年に愛知県で野外生息する個体が確認されて以降（揚妻・柳原 2004）、各地で報告が相次ぎ、現在では北海道、本州、四国、九州で生息が確認されている（Ikeda 2015）。雑食性で、さらに、生息密度が高くなりやすく（Ikeda 2015）、生態系や農林水産業に関わる被害が大きと考えられることから、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、2005年に特定外来生物に指定された。

近年では、九州においても分布拡大が懸念されている。令和4年（2022年）4月1日現在、熊本県では、県北および県西にあたる熊本市、荒尾市、水俣市、玉名市、山鹿市、菊池市、宇城市、宇土市、天草市、玉名郡玉東町・和水町・南関町、菊池郡大津町・菊陽町、阿蘇郡小国町・高森町・南阿蘇村、上益城郡御船町・益城町・甲佐町・山都町、八代郡氷川町、葦北郡芦北町においてアライグマの生息が確認されている（<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/175953.pdf>, 2022年5月14日確認、熊本県自然保護課、アライグマ生息確認情報一覧（熊本県内））。

野外におけるアライグマの分布について、最新の情報を把握しておくことは、各種被害の予測や対策の検討の際に重要である。

熊本県 RDB 補完調査として自動撮影カメラによる調査を実施しているが、アライグマの生息が未確認であった阿蘇市において、本種の映像が撮影されたので報告する。なお、熊本県希少野生動植物検討委員会は県内の希少種の調査を実施しているが、同時に外来種の把握も行



図1 調査地

なっている。

調査地

調査地は、菊池川の上流である菊池渓谷である（図1）。菊池渓谷は、阿蘇外輪山北西部の標高500～800 m で、阿蘇くじゅう国立公園の西端に位置する。渓谷沿いは自然林に覆われており、避暑地および紅葉の名所として人々に親しまれている。自動撮影カメラ設置地点の選定に当たっては、設置に関して特に許可の必要がない国立公園普通地域の国有林内とした。

方法

調査地において、自動撮影カメラ2台と餌を渓谷沿い

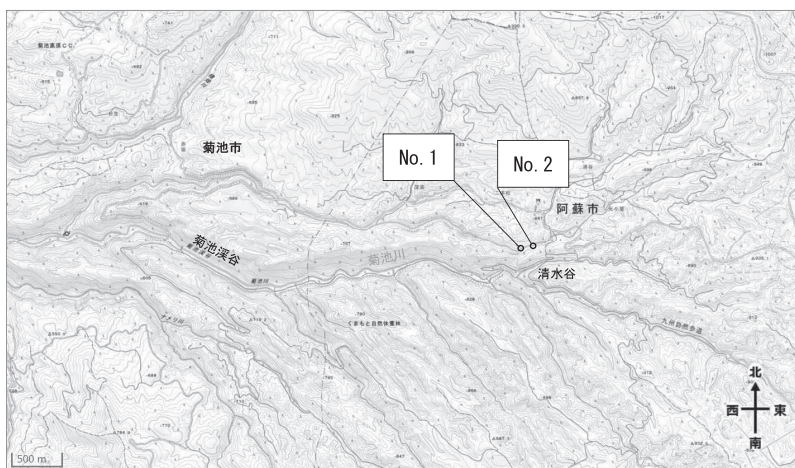


図2 自動撮影カメラ設置地点

表1 自動撮影カメラ設置地点の緯度・経度と設置・回収日

カメラNo.	緯度・経度	設置日	回収日
1	N33° 00' 14.39", E130° 58' 38.45"	2022/4/17	2022/4/20
2	N33° 00' 15.27", E130° 58' 42.40"	2022/4/17	2022/4/20

の水際に設置した。自動撮影カメラの設置地点は、菊池溪谷の東側（阿蘇市）に位置する清水谷周辺とした（図2および表1）。川幅は1～2m程度で、直径1m以上の岩が多数位置している。

自動撮影カメラの設置期間は、2022年4月17日から4月20日であった。自動撮影カメラはLtl-6310WMCを使用し、動画撮影設定とした。赤外線センサーにより動物を感知して撮影する1回あたりの撮影時間は60秒間とし、再び動物を感知して撮影を開始するまでの撮影間のインターバルは0秒とした。自動撮影カメラは、高さ約50cmの三脚上に固定し、カメラが餌を向くようにして三脚を水際に立てた。餌には生のアジを使用した。

アライグマと他の中型哺乳類との識別は、本種の特徴である横縞模様のある尾と細長い5本の指を基にした (http://kyushu.env.go.jp/wildlife/mat/data/m_2_2/m_2_2_6.pdf, 2022年6月11日確認, 環境省九州地方環境事務所, 特定外来生物アライグマ)。

結 果

アライグマは、カメラNo.1の地点で確認された。撮影日時、2022年4月18日の21:38と21:43の2回であった。

初回撮影された際は、カメラの前のアジを口にくわえ（図3a）、2m程度カメラから離れると（図3b）、アジを両前足でつかみ頭部を齧った（図3c）。その後、川の水にアジを浸けて前足で洗うような行動をし（図3d）、

再び齧った。

2回目に撮影された際には、カメラに興味を示し（図4a, b）、カメラを設置していた三脚を押し倒して（図4c, d）去っていった。

なお、アライグマ以外の種として、カメラNo.2ではネズミ類が撮影された。

考 察

アライグマは、熊本県内では県北に位置する菊池川流域の5市町（玉名市、山鹿市、菊池市、玉名郡和水町・玉東町）で確認頻度が高いことが報告されている（長尾ほか 2020）。また、多様な環境に生息するものの、河川や湿地、水田、池などの水辺への環境選択性が強いとされ（Urban 1970; 倉島・庭瀬 1998; 前崎ほか 2001; Suzuki et al. 2003）、河川沿いに分布を拡大する可能性が指摘されている（Ikeda et al. 2004）。

以上のことから、生息数が増加傾向にあると考えられる菊池川下流域から菊池川に沿って上流へ移動し、阿蘇市に位置する菊池溪谷で今回確認された可能性があると考えられた。レッドデータブックくまもと2019（熊本県希少野生動植物検討委員会 2019）では菊池溪谷を哺乳類の重要なハビタットに選定しているが、その中でアライグマの侵入が危惧されている。今後、菊池溪谷一帯における本種の確認調査と駆除の取組強化が望まれる。

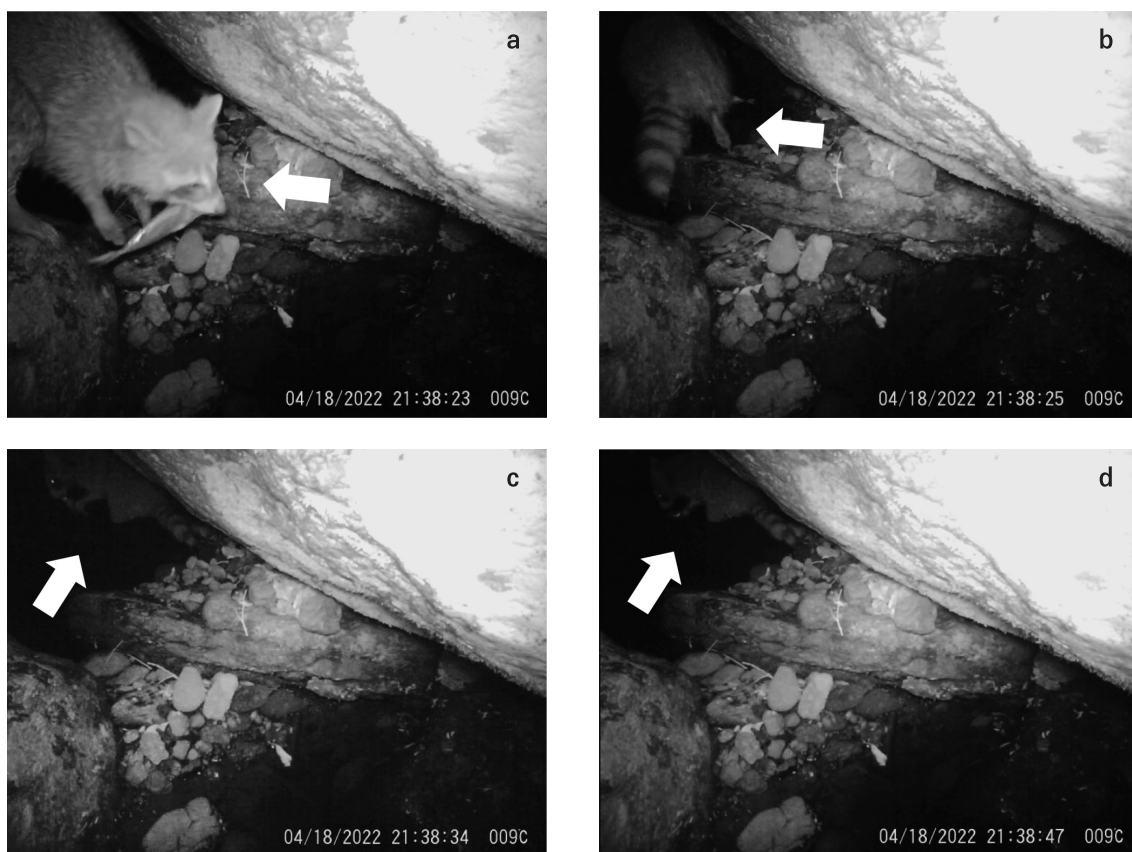


図3 アジを食べるアライグマ (↑)



図4 自動撮影カメラに興味を示すアライグマ

引用文献

- 揚妻-柳原芳美. 2004. 愛知県におけるアライグマ野生化の過程と今後の対策のあり方について. 哺乳類科学, 44(2): 147-160.
- Ikeda, T. 2015. *Procyon lotor*. In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan 2nd ed., pp. 232-233. Shoukadoh Book Sellers and the Mammal Society of Japan, Kyoto.
- Ikeda, T., Asano, M., Matoba, Y. and Abe, G. 2004. Present status of invasive alien raccoon and its impact in Japan. Global Environmental Research, 8 (2): 125-131.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会. 2019. レッドデータブックくまもと2019 - 熊本県の絶滅のおそれのある動植物-熊本県環境生活部自然保護課, 熊本. 362pp.
- 倉島 治, 庭瀬奈穂美. 1998. 北海道恵庭市に帰化したアライグマ (*Procyon lotor*) の行動圏とその空間配置. 哺乳類科学, 38: 9-22.
- 前崎武人, 青柳正英, 林 文. 2001. 馬追・野幌丘陵における野生化アライグマの生息数(密度)の推定とその生息環境. 森林野生動物研究会誌, 27: 5-16.
- 長尾圭祐, 安田雅俊, 吉田洸貴, 田島裕也, 梅林文哉, 城要, 安田樹生. 2020. 熊本市南部の雁回山におけるアライグマの生息状況と自動撮影カメラで記録された野生動物. 熊本野生生物研究会誌, 10: 1-8.
- Suzuki, T., Aoi, T. and Maekawa, K. 2003. Spacing pattern of introduced female raccoons (*Procyon lotor*) in Hokkaido, Japan. Mammal Study, 28(2): 121-128.
- Urban, D. 1970. Raccoon populations, movement patterns, and predation on a managed waterfowl marsh. The Journal of Wildlife Management, 34 (2): 372-382.

受付日: 2022年6月12日 受理日: 2022年7月8日

連絡先: 前田史和

〒861-1113 熊本県合志市栄2127-32

電子メール fumizo2019@gmail.com